



がんの骨転移

ゾレドロン酸点滴静注「トーフ」の 治療を受ける患者さんへ

監修

医療法人豊仁会 三井病院 乳腺センター センター長
前 埼玉県立がんセンター 病院長

田部井 敏夫 先生

Contents

はじめに	2
骨転移とは？	3
骨転移による症状	4
骨転移の治療	5
ゾレドロン酸について	6
ゾレドロン酸の副作用	7
日常生活で注意すること	10

はじめに

がんの治療は日々進歩しており、より良い治療が生まれています。一方でがんは、骨にも転移（骨転移）することがあり、抗がん剤以外でも治療することがあります。

骨転移はお薬等で治療しながら、日常生活でも骨折しないように注意することが必要です。ゾレドロン酸は骨転移の症状を軽くすることができるお薬です。この冊子では、骨転移、ゾレドロン酸の治療や副作用、日常生活で注意することなどを簡単にまとめています。

わからないことや不安なことは主治医・薬剤師・看護師に遠慮なく相談してください。

本冊子が少しでも皆さんのお役に立ち、よりよい日常生活を送っていただけることを願っております。

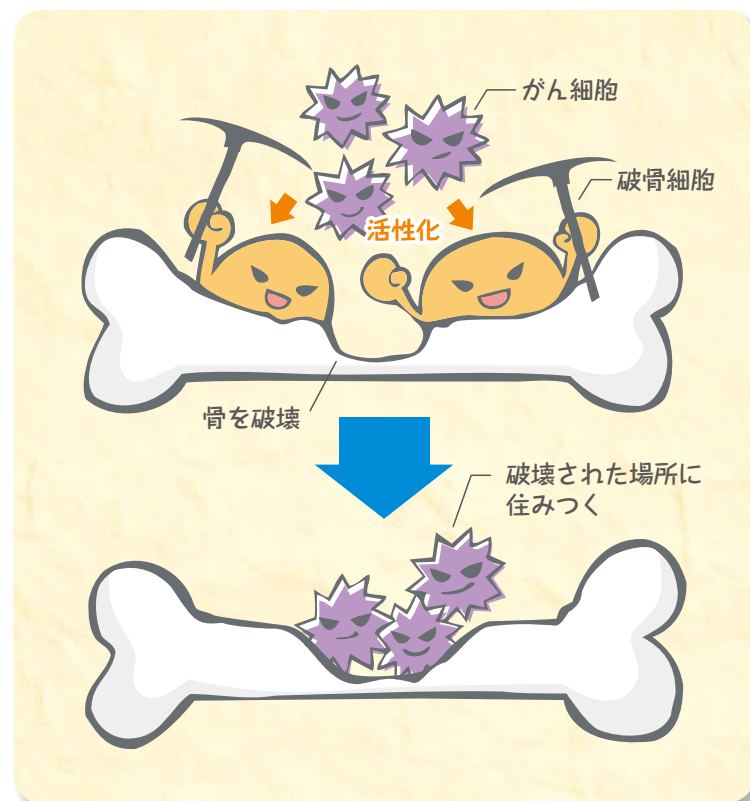
医療法人豊仁会 三井病院 乳腺センター センター長
前 埼玉県立がんセンター 病院長

田部井 敏夫

骨転移とは？

増殖したがん細胞が、血液によって身体を移動し、骨に定着して増えることを「骨転移」といいます。

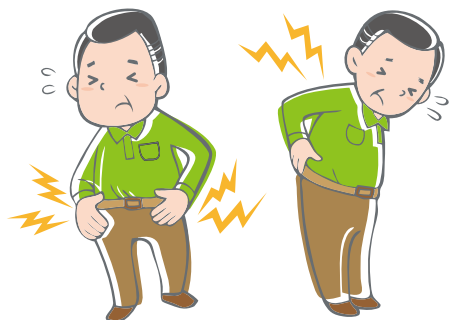
骨に流れ着いたがん細胞は、「破骨細胞」という細胞を活性化し、骨の破壊をうながし、住みつく場所を確保して、増殖していきます。



骨転移による症状

骨転移の部位が痛くなったり、骨折しやすくなったりします。また、がん細胞が脊髄を圧迫してしびれや麻痺が起きたり、がんの種類によっては骨から大量のカルシウムが血液中に溶け出す高カルシウム血症が起こることがあります。

痛み



脊髄圧迫(しびれ・麻痺)



骨折



高カルシウム血症(のどが渇く・頻尿など)



骨転移の治療

骨転移の治療は、「がん自体に対する治療」を基本に、「骨転移の進行を抑える治療」や「症状を抑える治療」を併せて行います。

骨転移の治療

がん自体に対する治療	化学療法やホルモン療法などを行い、がんの増殖を抑えます。	
骨転移の進行を抑える治療	ゾレドロン酸	骨転移の進行を抑え、骨転移による症状が起きるのを改善したり、遅らせたりします。
	デノスマブ	
症状を抑える治療	放射線治療	骨転移のある部位の痛みを和らげたり、骨折を予防したりします。
	外科治療(手術)	骨折した部位を治療したり、骨折を予防したりします。
	鎮痛薬の服用	痛みを和らげます。

ゾレドロン酸について

ゾレドロン酸は、がんの住みつく場所をつくる破骨細胞の働きを抑えて、骨転移の進行を抑えます。



ゾレドロン酸の治療の進め方

骨転移の治療では、3～4週間に1回、15分以上かけて点滴します。外来での治療もできます。詳しくは、主治医にお尋ねください。

ゾレドロン酸の副作用

ゾレドロン酸を点滴すると、次のような副作用が起こることがあります。

起こりやすい副作用

●発熱

点滴してから数日以内に、38℃程度の発熱が起こることがあります。特に、1回目の点滴で起こりやすく、熱を下げるために、非ステロイド性消炎鎮痛薬などが処方されることがあります。

●骨痛

点滴してから数日以内に、一時的に骨の痛みが強くなることがあります。点滴回数に関係なく起こりやすく、痛みを抑えるために、非ステロイド性消炎鎮痛薬などが処方されることがあります。



ゾレドロン酸の副作用

まれに起こるが注意が必要な副作用

●腎機能障害

ゾレドロン酸の治療中に、腎臓の機能が低下することがあります。定期的に腎臓の機能を確認し、異常が認められた場合は適切な処置が行われます。

また、尿の量が少なくなる、からだがむくむ、のどが渇くなどの症状が起きましたら、すぐに主治医に相談してください。

●低カルシウム血症

点滴当日～10日目頃に血液中のカルシウムが少なくなり、手のしびれや力が入らないなどの症状が起こることがあります。定期的に血液検査を行い、異常が認められた場合は適切な処置が行われます。

また、けいれん、筋肉の脱力感、しびれ、場所・時間・名前がわからない、動悸などが起きましたら、すぐに主治医に相談してください。

●顎骨壊死(あごの骨の壊死)

あごの骨が壊死する副作用で、抜歯などの歯科治療を行うことに関連して発生しやすいと言われています。

口腔内を清潔に保ち、定期的な歯科検査を受け、歯科受診時に必ず本剤の使用を歯科医師に知らせてください。

抜歯などの侵襲的な歯科処置はできる限り避けるようにして頂き、あごの痛み、歯のゆるみ、歯ぐきの腫れやその他の異常が認められた場合には、直ちに歯科・口腔外科を受診してください。

●ほかに注意が必要な副作用

- からだがだるい、全身のむくみ、吐き気、息苦しい、動くときの息切れ[うっ血性心不全]
- 発熱、から咳、息苦しい、息切れ[間質性肺炎]
- 太ももや太ももの付け根などの痛み[大腿骨転子下および近位大腿骨骨幹部の非定型骨折]

ほかにも気になる症状がありましたら、主治医または薬剤師に相談してください。



日常生活で注意すること

骨折などを防ぐために、日常生活では次のことに気をつけましょう。

● 飲酒は適量に

過度な飲酒は、トイレが近くなり、骨に必要なカルシウムが尿から排泄されてしまいます。

● 禁煙をしましょう

喫煙はカルシウムの吸収を妨げます。また女性では丈夫な骨の維持に関わる女性ホルモンの分泌を妨げます。

● 規則正しい生活

昼間は無理のない範囲で体を動かし、夜は早めに就寝するようにしましょう。

● 転倒防止の工夫

転倒の原因となるつまづき、すべりなどを防ぐため、家の段差を減らしたり、すべりにくい敷物をしくなど転倒防止の対策をしましょう。

● 適度な運動

主治医と相談しながら、軽い散歩や筋力トレーニングをしましょう。

● 骨に負荷のかからない姿勢・動作をしましょう

中腰になる、重いものを持ち上げる、からだをねじるなどは、骨に負荷がかかり骨折の原因となりますので、注意しましょう。

緊急の連絡先

病院・医院名

電話番号

担当医師名

科

お問い合わせ窓口

memo

発行：2014 年

監修：医療法人豊仁会 三井病院 乳腺センター センター長
前 埼玉県立がんセンター 病院長
田部井 敏夫

提供：東和薬品株式会社

本冊子の内容を許可なしに複製、複写（コピーなど）、
転載することは法律で認められた場合を除き禁じられて
います。